

『令和6年度VR認知症体験会』 開催要項

～ 令和6年度公益財団法人岩手県福祉基金助成事業 ～

1 目的

- ・ 「認知症の体験」を通して、認知症を取り巻く課題を当事者視点で考えることができるようになる。
- ・ 認知症になっても幸せに暮らせる社会にするために、参加者自身がどのように行動するべきかを言語化できるようになる。

2 主催

一般社団法人岩手県介護福祉士会

3 日時

令和6年9月21日（土）

[午前の部] 10:30 ～ 12:00 （受付開始 10:00～）

[午後の部] 13:30 ～ 15:00 （受付開始 13:00～）

4 会場

ふれあいランド岩手 1階 ふれあいホール（盛岡市三本柳 8-1-3 TEL:019-637-1000）

5 内容

項目	主な展開	意図
導入 (15分)	①全体の流れの説明 ②チェックイン（認知症に対するイメージなど） ③ワークの全体共有と体験への導入	体験前に「認知症に対するイメージ」を振り返ることで、体験後の学びや気づきにつなげる。
体験1 (25分)	①体験「私をどうするのですか？」(2分) （視空間失認の症状体験） ②グループディスカッション～発表 ③解説・補足 ※体験1は、昨年度と同様のコンテンツです。	認知症がある方の「問題行動」とされるものには理由があることに気づく。
体験2 (20分)	①体験「やすおじいちゃん物語」(10分) ②グループディスカッション～発表 ③解説・補足	認知症と診断をされたおじいちゃんの視点で、家族の対応を2パターン体験するコンテンツ。対応の違いによって体験者自らの心の動きがどのように変化するかを感じる事により、家族の関わり方が本人の症状にどう影響しているかを体感する。
体験3 (25分)	①体験「丹野智文物語」(19分) ②グループディスカッション～発表 ③解説・補足	39歳で若年性認知症と診断を受けた丹野智文さんの視点で、診断を受けてから前向きに一步を踏み出されるまでを忠実に再現したコンテンツ。丹野さんの事例から、周囲の人間関係の大切さ、認知症がある方の側で私たちに何ができるのかを具体的にイメージすることができるようになる。
まとめ (5分)	全体のまとめ	<全体 90分>

講師：株式会社シルバーウッド VR事業部 様

6 対象

岩手県介護福祉士会会員、県内の介護従事者等

7 定員

[午前の部] 40名

[午後の部] 40名

※午前と午後の参加調整をお願いする場合があります。

また、多数の申込みが想定されるため、1事業所の上限を3名までとします。

8 参加費

会 員：無料

※「会員」とは、日本介護福祉士会（岩手県介護福祉士会）へ年会費を納め会員登録している方のことです。介護福祉士の資格登録や各施設協議会等とは異なりますのでご注意ください。

非会員：3,000円/人

※ 本体験会を機に入会される方は、入会申込書の提出を条件に会員価格（無料）で参加できます。

※ 受講決定後にキャンセルする場合は、参加費の返金はできませんのでご了承ください。

9 申込方法

申込み専用フォームからお申込みください。

⇒ <https://forms.gle/y9CpL38yAWKGBEdw9>

※ 本会ホームページからも申込み専用フォームに進むことができます。

(<https://iwate-kaigofukushi.com>)



【 申込期間 】 令和6年7月16日（火）～ 令和6年8月23日（金）

※ 申込締切後、9月6日（金）までに「受講決定通知書」及び「請求書（非会員の方）」をメールでお送りします。（メールが届かない場合、事務局までご連絡願います。）

10 その他

- (1) 本会会員の方には、生涯研修ポイントを交付します。
- (2) グループワークの際は、マスクを着用願います。
- (3) 飲物は各自ご準備ください。なお、会場には自動販売機があります。

11 問い合わせ先

一般社団法人岩手県介護福祉士会事務局（担当：高橋）

〒020-0831 盛岡市三本柳8地割1番3 ふれあいランド岩手内

（岩手県社会福祉協議会 福祉人材研修部内）

TEL：019-637-4527 FAX：019-637-9612

E-mail：k-takahashi@iwate-shakyo.or.jp



【体験1】



【体験2】



【体験3】





認知症になると想いを表に出しづらくなり、代わりに起こす行動が“周囲には理解できないもの”と映ってしまうことが多くあります。

表面的な行動は「徘徊」「帰宅願望」「入浴拒否」「暴力・暴言」などの様々な言葉で表され、“認知症だから起こすもの”と思われがちです。しかし、認知症がある方を取り巻く「問題」とされるものは、ご本人の問題ではなく、ご本人を取り巻く周囲の理解やコミュニケーションが大きく影響していることが多いということを、ご本人の視点を体験することで理解につなげることを目的としたプログラムです。(体験人数100,000人 2022年12月現在)

「認知症を学ぶ」のではなく「認知症を体験する」ことで認知症のある方への理解を深めることを目指しています。

VR認知症体験会は、参加人数分のVR機材と講師を派遣して実施する約90分の研修プログラムです。

90分で3つの症状を体験し、体験ごとに参加者同士で「本人の視点に立ったときに何を感じ何を思ったか」を話し合い、認知症がある方を取り巻く環境をどの様に変えることが状況改善につながるのか意見を出し合い、さらに制作協力いただいている認知症当事者の方のインタビューを聞きながら認知症がある方を取り巻く問題の本質に迫る内容です。



グループディスカッション



VR 認知症
「レビー小体病 幻視編」

原作者
樋口 直美 さん

当事者インタビュー

VR認知症は「銀木犀」から生まれました



VR認知症体験プログラムは、当社が運営するサービス付き高齢者向け住宅「銀木犀」から生まれました。銀木犀は入居者の約9割の方が、軽度認知障害（MCI）を含めた認知症のある方たちです。入居者の方たちと関わる中で、社会の認知症に対する偏見を感じてきました。

自分が認知症を経験したことがないから、認知症のある方に共感をしにくく、「もう何も分からなくなってしまった人」「何だか怖い」といった感情につながるのでは。そんな思いから、認知症がある方たちの世界を一人称体験する「VR認知症」が生まれました。

体験者の声

認知症については、全て理解しているつもりでいたが、上から目線だったのかもしれない。“症状”を見て“ご本人”を見ていなかったのかもしれない。

● 認知症専門医

認知症の方の気持ちを理解し寄り添いたいと思うとずっと来てがなかなかできなくて苦しんでいた。体験を通じてこれから自分がどうしていけばいいのかわりとわかった気がして涙が出た。

● 介護職員

認知症に対して「大きな負」のイメージしかなかったが、体験を通じて負のイメージがなくなった。

● 大学生

10年前にこの体験ができていたら自分の母親に対する介護が変わっていたかもしれない。今介護をしている家族に見てほしい。

● 介護家族

今まで受けてきた講義とは全く違う理解の仕方で驚いた。VR体験の力に大変驚かされた。

● 認知症認定看護師

現在父親の介護中だが早速、接し方を変えていきたいと思った。

● 介護家族